

Focus on Sea Side

Photo&Text : **Kagii Yasuaki**

#03, カオリータさん

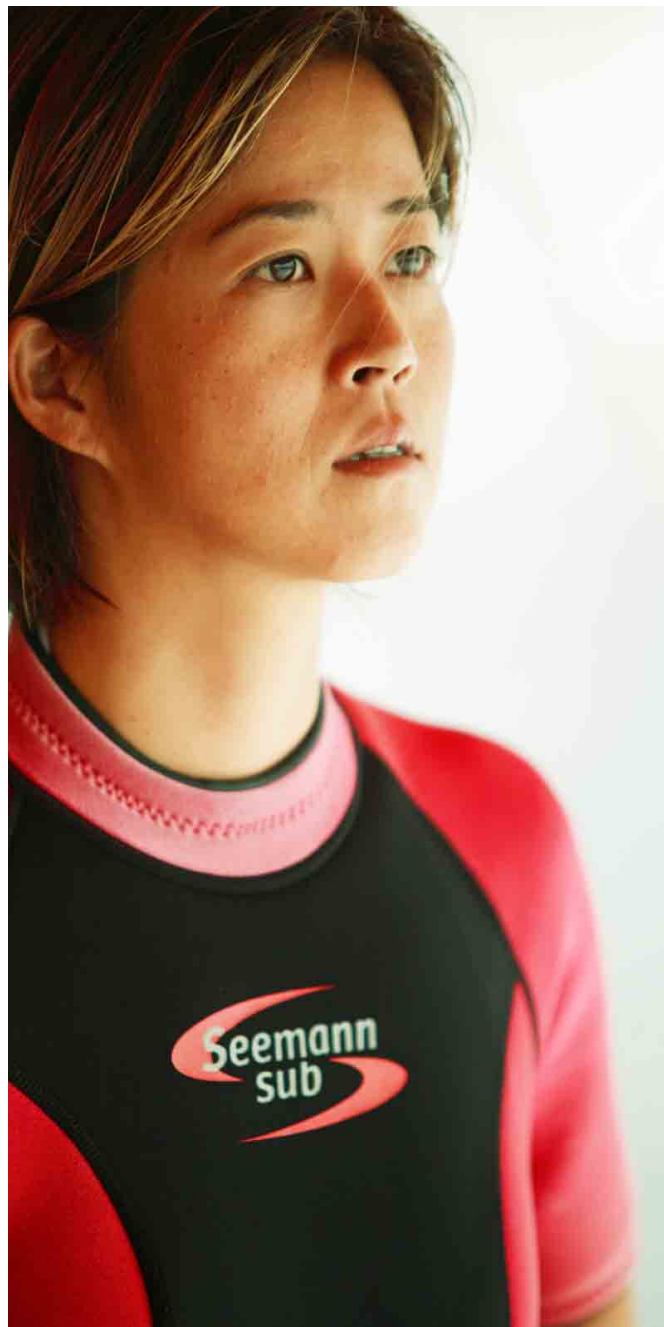
モルディブのダイブサファリシーンに新しく登場した「MY MARIANA号」。モルディブの老舗ダイブリゾート「Biyadoo Island」で人気を博していたダイビングセンター「MARIANA DIVING WORLD」がオペレートする。ダイブサファリとしては後発組でありながら、最近、人気急上昇の注目のクルーズ船だ。今回、その「MY MARIANA号」を指揮するカオリータをピックアップ。

私(鍵井)は2000年に月刊「ダイバー」の取材でタイのシミランクルーズに乗船した時に初めてカオリータと会った。当時のカオリータは金髪ショートカットでとてもボーイッシュな印象だった。レポーターとして同行してくれた妻のまち子とカオリータはすぐに意気投合し、その後、妻の紹介で、モルディブのBiyadoo Islandでカオリータはガイドすることになった。Biyadoo Islandは妻と私が1995頃からガイドをしていた島でとても大切な場所だった。そんな島にあの破天荒なカオリータがガイドとして加わったことを私たち夫婦は大変嬉しく思った。今でもお付き合いのあるリピーターのゲストから「この前、Biyadooに行ってきた、カオリータに会ってきました。彼女はクレージーで本当に最高！」とお褒めの言葉を頂く度に、まるで我が事のように喜んでいました。

カオリータは2000年からの2シーズン、タイのシミランクルーズでのガイド経験がある。「シミラン諸島は、白い砂地、コーラルブロック、巨石の地形などポイントはバリエーションに富ん

でいる。マクロの生物の充実しているし、マンタもコンスタントに見られます。あまり潮が激流になることもないので、どのレベルのゲストダイバーにとっても潜れるポイント多いが魅力ですね」と当時のシミラン諸島海域の印象を語ってくれた。

そして2001年、5月にモルディブにやって来た。初めて潜ったモルディブの海は、彼女にとってとても刺激だったようだ。「ファーストダイブでハマった！」と勢い良く話し出す。「モルディブの海のワイド系はハンパではなかった。タイの海も好きで好きで仕方がなかったけど、こっちの海に来てころっと気持ちが変わってしまった(笑)。また、海の難しさも実感した。特に潮を読む難しさ。モルディブに来て、もう一度一からやり直そうと思いました。リゾートで働き出した当初、当時のベスリーダーに「今日はとても流れていましたね」と、「今のポイントは潮流は無いに等しい」と言われた。同じ海なのにその付き合い方がまるで違う。そこで、もう一度、気持ち引き締め直したことを覚えています」。確かにモルディブのガイドは潮を読む力に長けて





いなくてはならない。モルディブのダイビングポイントにはブイが全く設置されていない(いくつかの例外はある)。まず、ガイドはスキングダイビングで潮の流れを読み、その強さ、方向などによってエントリーするポイントを毎回決める。そして、現地のドーニキャプテンにエントリー地点を伝え、そこへドーニ(ダイビングボート)を移動させる。ダイビングの成功はその潮の流れの確認でほとんど決定する。

「タイもモルディブもそうなのですが、インド洋は、魚影が濃く、ゲストダイバーはほっといても何でも見れてしまう。どこを見ても魚だらけの海。確かに、ヨーロッパのようなコース取りだけのダイビングや、またバディダイビングでさえ、そこそこの生物は見れてしまう」とも率直な感想を述べる。

では、そんなガイド要らずの海でカオリータは、どのようにガイドとしてアピールするつもりなのか？

「私はモルディブをより楽しめるように演出したい。難しい海だけど、バディで潜るときよりも、より楽に生物に出会えたり、潮の流れを読んで、ゲストダイバーの脚力を考えたコース取りをしたり、ビデオやカメラをもったダイバーへのサポート役になったり。季節やエリアを上手く選択すると、ゲストの運やラッキーでも大物が見られる海であるということは、充分に分かっています(笑)。それでもカオリータと潜りたいと言われるガイディングを志してします。」と話してくれた。

ある取材の際、南アリ環礁でジンベイザメの撮影を行っていた。毎年出現する海域でもう6日間も現れていないという情報が入っていた。ジンベイザメ狙いのアウトサイドリーフでのダイビングを終え、今回も不発だったかと落胆していると、ドーニクルーがジンベイザメの影が見えると叫んだ。急いでドーニに上がり、スノーケリングの準備を整えて再び海にジャンプした。

深い青の向こうからゆっくりとジンベイザメが現れた。そして、全てのゲストダイバーに挨拶でもするかのようにゆっくりと泳ぎ去った。それほど長い時間ではなかったが、ゲストダイバーはみな幸せに包まれた。その後は、まるで魔法をかけられてたようにドーニの上で盛り上がり始めた。私はジンベイザメを少し長く追いかけた後、カオリータと水面で落ち合った。そして、軽くお祝いのおハグをした。水面に漂いながら、カオリータが「さすがに引きが強いな〜」と言った。私は取材カメラマンの運を褒めてくれているのかな？と思い、「誰が？」とわざと聞いてみた。そうすると、「私に決まっているやんか〜」という予想外の答えが返ってきた。私はあとの言葉を失ったが、その自信に満ちた彼女の笑顔はとてもキラキラと輝いていた。

#03, カオリータさん

「MY MARIANA号」

どんなダイビングが好きなんですか？

モルディブの海について全く知らない状態で来て、リゾートガイドを経験し、モルディブの海がすごく好きになった。もうモルディブの海以外ではガイドしたくないくらい(笑)マクロも好きだけど、一番好きなのはコーナーダイビング。特に乾季の透明度が高い時にエントリーした瞬間に、光が下から上がってくる感じが好き。その中で“パターン”と潜行して、コーナーで“ゴォー”と流れているところで、大物を“ガンガン”を見ているのが好き。彼女の会話&ブリーフィングには擬音語が多い(笑)特に好きな生物は？という問いに、マジに困って「みんな好き」と言う。みんな、私の「お気に」と教えてくれた。

クルーズを始めてみて、どうですか？

ゲストダイバーも私もタンクを担いであまり歩かないから良いですね。リゾートの頃はハウスリーフダイビングを楽しむためにダイビングセンターから島の裏側にあるパッセージ3まで歩くことがあったんですが、背骨が折れるか……と思いました(笑)クルーズではゲストは、潜る、食べる、寝るのパターンでとてもらくちんだと思います。また、海が荒れていても、モルディブの海は逃げ込めるポイントが必ずあるので助かります(笑)

最後に一言どうぞ。

モルディブは広い！もっともっといろんな場所に潜ってみたい。モルディブで一番のガイドになってやるぞ！！(笑)それと只今、「MY MARIANA」では日本人スタッフ募集中しています。やる気がある方はご連絡を〜

2006年11月にモルディブを去ってしまう先輩と友人へ

>>>太田祥平さんへ(マディバル7)
ーガイドとして、本当に懂れてきた人でした。ガイドとして目指す人がいなくなってしまうのはとても残念で寂しい。祥平さんのように、モルディブの海をいっぱい知って、生

物の面白さもいっぱいお客さんに伝えられるようになりたいです。本当にお疲れ様でした。

>>>赤間大介くんへ(アイランドサファリ号)

大ちゃんとは、タイのガイド時代に知り合ってからスゴイ親友で、大ちゃんがいなくなったら、カオリータの友達はヤモリくらいになってしまう。いつかまた一緒に仕事したいなと思っています。日本に帰ったら、ミユキと愛娘・琉花を大事にせよ〜